

## ■前回の作業部会・検討委員会の意見と対応方針

### 第1回検討委員会での主な意見と対応方針

開催日時： 令和6年8月26日(月)9時半～

主な意見： 下表の通り

観点	主な意見	対応方針
計画の方向性に係る観点	先進技術については、技術だけが先行することのないように何のために取り組むか、市の交通まちづくり全体を考えて方向性を計画の中にしっかり位置づけられると良い。	市民アンケートで自動運転バスの実用化に向けて期待することや懸念することを把握し検討する。
	まちなかだけでなく、市全体のことを考え地域性も考慮した計画にするべきである。	地域毎の特性にあった交通環境を検討する。
	バリアフリーの視点や新しいモータリゼーションへの対応、利用者が減少した場合の輸送方法など、地域の方々とつくり上げていく必要がある。	市民アンケートで「各種取り組みの満足度・重要度」を地域や年齢層に分けて分析し施策を検討する。
アンケートに係る観点	日々の生活で移動に困っている人に対し移動サービスを提供する必要があり、アンケートでは地区・年齢毎にそのあたりが把握できると良い。	市民アンケートで、地域毎の移動の困りごとや困っている度合いを把握し地域や年齢層に分けて分析し施策を検討する。
	地区毎で何に取り組むべきかの検討につなげるためには、単純に不満を聞くのではなく、不満を抱く理由を聞く必要がある。	
評価指標に係る観点	評価指標は、市中心部と郊外で分けて分析できると良い。	評価指標は地域毎に分析できるよう検討する。また、評価指標をアンケートから設定する際には、計画を評価できるよう対象の条件などを再検討する。
	評価指標1-1は全市民アンケートであり、公共交通を利用しない人も含まれており、意見が薄まっている可能性がある。また、評価指標2-2の歩行者交通量は、当日のイベント等の有無によっては、平常時として評価できないこともある。計画を評価するための指標として再検討する必要がある。	
	公共交通の利用に対して、困っている人を減らす（不満の数を減らす）という視点で評価できると良い。	
	障害者は自動車を運転できないケースも多く、公共交通機関を頼ることになる。路線が無くなると困る立場の人も多いので、利用しやすい交通になると良い。	公共交通ネットワークの維持・形成や公共交通の運転士確保などの課題解決に向けた施策について検討する。

観点	主な意見	対応方針
評価指標に係る観点	高齢化が進み、車を手放さないといけないタイミングが来るが、人に頼って移動することも難しい。乗合タクシーなど上手く活用する必要がある。	市民アンケートで、地域の移動の困りごとや困っている度合いを把握し家から駅やバス停などの公共交通が使える場所までのファーストクォーターマイルやラストワンマイルについて検討する。
その他の観点	災害時のリスク対応を検討いただきたい。	交通事業者のヒアリング等を通じて災害対応について検討する。
	リニア新幹線の開通をどう扱うかも考えないといけない。少なくとも念頭に置いて、計画を考える必要がある。	将来的な見通しを確認し、計画への記載を検討する。
	名豊バイパスの蒲郡区間開通による影響を考える必要がある。	市内の交通事情について、確認していく。